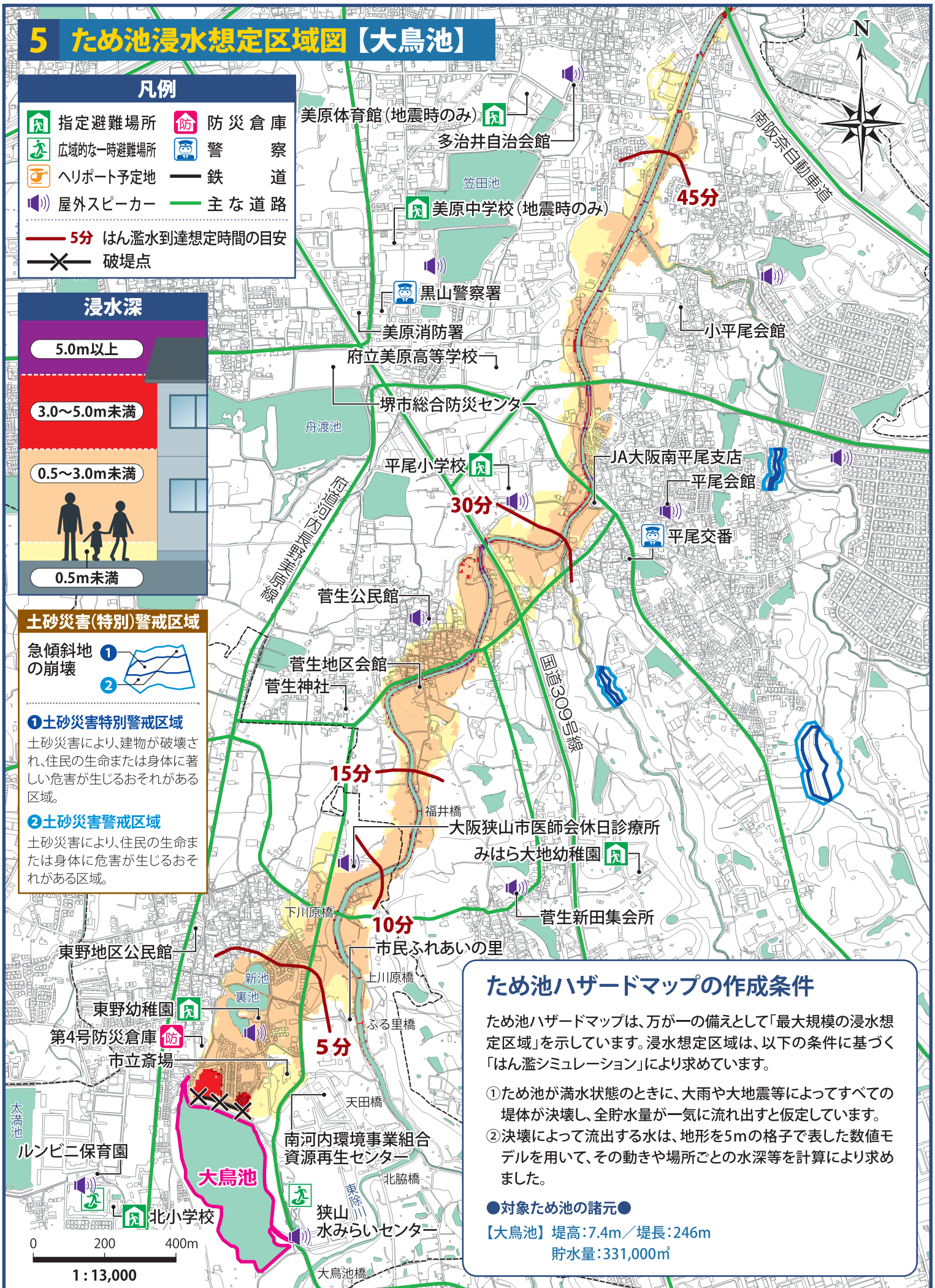


5 ため池浸水想定区域図【大鳥池】

- 凡例**
- 指定避難場所
 - 防災倉庫
 - 広域的な一時避難場所
 - 警察
 - ヘリポート予定地
 - 鉄 道
 - 屋外スピーカー
 - 主な道路
 - 5分 はん濫水到達想定時間の目安
 - 破堤点



- 土砂災害(特別)警戒区域**
- 急傾斜地の崩壊
 - ①土砂災害特別警戒区域
土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。
 - ②土砂災害警戒区域
土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域。



ため池ハザードマップの作成条件

ため池ハザードマップは、万が一の備えとして「最大規模の浸水想定区域」を示しています。浸水想定区域は、以下の条件に基づく「はん濫シミュレーション」により求めています。

- ため池が満水状態のときに、大雨や大地震等によってすべての堤体が決壊し、全貯水量が一気に流れ出すと仮定しています。
- 決壊によって流出する水は、地形を5mの格子で表した数値モデルを用いて、その動きや場所ごとの水深等を計算により求めました。

●対象ため池の諸元●
【大鳥池】堤高:7.4m/堤長:246m
貯水量:331,000m³

拡大図

ハザードマップ活用の留意点

東日本大震災の津波被害などでは、ハザードマップで示した浸水想定結果のイメージが固定化され、状況に応じた避難判断の阻害になったケースがありました。浸水想定結果は、ある一つの仮定条件に基づく結果です。また、詳細な地形等を反映できていない場合もあり、浸水想定区域外での浸水や、想定結果以上の浸水深となる可能性もあります。このため、ハザードマップは多様な災害をイメージする基礎情報であることに留意し、発災時は状況に応じた柔軟な避難行動を心がけてください。

